

平成 27 年度全国学力・学習状況調査の結果

学校名	長崎県立長崎東中学校	
生徒数	117 名	
各教科の状況		
国語 A	概況 改善策	平均正答率は 94.3% であった。語句の意味を理解し文脈の中で適切に使う力や単語の品詞について理解する力がやや不足している傾向にあった。今後の授業では、語句の意味を正確に理解して、文脈に応じて使うことができるような学習活動や、口語文法の理解を深める学習活動を設定する。
国語 B	概況 改善策	平均正答率は 83.9% であった。複数の資料から適切な情報を取捨選択し、そこから自分が社会にどう関わりたいかを考えて書くという問題では、資料の読み取りはできているが、自分の関わりについて具体的に言及できなかった生徒がいた。今後の授業では、文章の要旨を正確にとらえさせ、自分の意見や取るべき行動を考えて表現する場面を多く設定する。
数学 A	概況 改善策	平均正答率は 88.8% であった。図形の問題において、用語の意味を正しく理解していないために、誤った答を導き出した生徒がいた。今後の授業では、用語の意味について細かく何度も確認するように指導するとともに、基礎事項の定着を図る。
数学 B	概況 改善策	平均正答率は 77.0% であった。第 1 学年で学習した比例・反比例、資料の活用分野の定着が不十分であった。また、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することが苦手な生徒が多かった。今後の授業では、論理的で分かりやすい証明を記述させるなど、言語活動の充実を図る。
理科	概況 改善策	平均正答率は 77.4% であった。第 1 学年で学習した光分野の理解度が低く、風向計の使い方や簡単な化学式を理解していない生徒がいた。今後の授業では、実験や観察を通して基礎的・基本的な実験技能の習得にさらに力を入れる。
質問紙調査の 状況		全校的に基本的な生活習慣は確立しており、家庭での学習時間も確保できているが、読書の時間が少なかった。成功体験があり自己肯定感も強く、生活に達成感を得ていることがうかがえた。自分の意見を述べることや長い文章を書くことが得意である一方、数学や理科と比べて低い国語への興味・関心の改善が、今後の課題であると考えられる。

学校名	長崎県立佐世保北中学校	
生徒数	116名	
各教科の状況		
国語 A	概況 改善策	平均正答率は94.4%であった。基礎的な知識は身につけていると考えられるが、慣用句などの知識の定着にはばらつきがあった。知っている言葉でも意味があやふやで適切に使えないこともあった。読書の推進などで生徒の語彙を増やすとともに、活用力をつけさせるために、今後の授業の中でより適切な表現を考え表現する機会を多く設定する。
国語 B	概況 改善策	平均正答率は83.1%であった。活用する基礎的な能力は身につけていると考えられるが、実際に資料を分析して自分の考えを述べるのが適切にできない生徒が多かった。経験の不足などが原因だと考えられるので、今後の授業の中で、様々資料から読み取ったことを正確に表現する活動や、資料を基に自分の考えを述べる活動を行っていく。
数学 A	概況 改善策	平均正答率93.2%であった。ある程度の知識は身につけていると考えられるが、証明の必要性や記述の仕方などを論理的に把握できていない生徒もいるので、今後の授業の中で丁寧に指導していく。また、資料から情報を正確に掴めない生徒が散見されたので、資料を注意深く読み取り、必要な情報を得ることに取り組ませる。
数学 B	概況 改善策	平均正答率は79.7%であった。必要な情報を選択して的確に処理し、その結果を事象に即して解釈したり、数学的な表現で説明したりする力が身につけていないため、グラフからの読み取りや、正しい説明を選択できない結果につながったと考えられる。今後の授業の中では、特に、関数の分野について重点的に指導を行い、論理的に把握して処理をできるようにしていく。
理科	概況 改善策	平均正答率は83.7%であった。個々の生徒の正答率のばらつきが小さく、全体的に基本事項が身につけていると考えられた。しかし、思考力をみる記述式の問題の正答率が低く、無回答も散見されたので、今後の授業の中で言語活動を充実させ、思考力や記述力の育成をはかっていく。
質問紙調査の状況	授業の予習をしている生徒の割合が18%と全国平均を下回っていた。家庭学習の時間を宿題や復習にあてている生徒がほとんどだったので、今後は、高い意識を持って主体的に予習などの学習活動に取り組む習慣を、生徒の身につけさせる指導を充実させていく。	

学校名		長崎県立諫早高等学校附属中学校
生徒数		117名
各教科の状況		
国語A	概況 改善策	平均正答率94.6%であった。文章から適切な情報を読み取り考えをまとめたり、登場人物の言動から内容を理解したりすることはよくできている。しかし、必要に応じて聞き取ったり、伝えたい事柄が伝わるように効果的に書いたりすることが十分できていない生徒がいた。今後の授業で、ペアやグループによる言語活動を適切に取り入れ、改善に取り組む。
国語B	概況 改善策	平均正答率85.9%であった。自分の考えを持ち、効果的な資料を作成して話すことはよくできていた。しかし、複数の資料を活用して必要な情報を集め、自分の考えを構築したり、根拠を明確にして書いたりする力が十分で身につけていない生徒がいた。今後の授業で、条件作文の際の課題を工夫するなどして改善に取り組む。
数学A	概況 改善策	平均正答率は91.2%であった。平面図形の性質を理解し、合同条件を正しく使って証明することはできていた。しかし、証明するというものの意味や直線、確率などの数学的定義などの理解が十分でない生徒もいた。今後の授業では実例をあげるなどして、きちんと理解できるように改善に取り組む。
数学B	概況 改善策	平均正答率79.0%であった。与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することはできていた。しかし、資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて、説明することが十分できていなかった。今後の授業では、言語活動を増やし表現できるように改善していく。
理科	概況 改善策	平均正答率は81.6%であった。生物的領域・化学的領域の正答率は90%前後であったが、物理的領域・地学的領域が70%台となっていた。今後の授業では、全体的に基礎・基本の定着をはかりながら、特に、物理・地学領域に重点をおいて指導を行っていく。
質問紙調査の状況		計画的に学習に取り組んでおり、学習習慣は定着している。予習に比較して復習ができていると回答している生徒の割合が少ないので、学習方法等について更に指導する。また、テレビなどのメディアへの接触時間は全体的に短い傾向にある。ゲームやスマートフォン等の使用を2時間以上行う生徒の割合は、全生徒数の1割未満であり、昨年度より改善された。